（様式５）

2024年 10月8日

信州eye基金　事業報告書

公益財団法人長野県みらい基金
理事長　髙橋　潤　様

所在地　長野県長野市北尾張部321
団体名　長野盲学校PTA
代表者職氏名　PTA会長　萩原　智穂　印

2023年9月26日付けで助成決定通知を受けた標記助成金について、助成募集要項10の規定により、下記のとおり報告します。

記

1　助成を受けた助成コース

○	(A)「**学びたいを応援**」：県内の視覚障がいを有する児童・生徒の学習支援に資する事業
	(B)「**暮らしを応援**」：県内の視覚障がいを有する者への全般的な支援に資する事業

2　報告する事業について

（1）　事業名称

学びの充実プロジェクト

（2）　事業の実施期間

2023年9月26日　～　2024年9月10日

（3）　助成額

（A）既助成額（概算払）	850,000　円
（B）対象経費の支出額	850,000　円
（C）助成金返還額　＝（A）－（B）	0　円

（様式５）

（４） 事業の内容

１．音声読書機・デスクトップリーダー（墨字の資料を読み上げる機器）
２．映像出力できる顕微鏡
３．小型の骨格標本
（実物大の模型は高額なため、縮小版でも骨格構造の理解に有用な標本を購入する。）
４．持ち運びができる針電極低周波治療器
５．スポーツ振興センター掛金補助（県より補助のない高等部以降の生徒対象）
６．資格取得への一部補助（漢字検定、英語検定、数学検定、理療科模擬試験等）
７．ことばのない重複障がい児童生徒のコミュニケーションツールとしてのVOCA
８．歩行指導に必要な白杖や石突

（５） 事業の成果

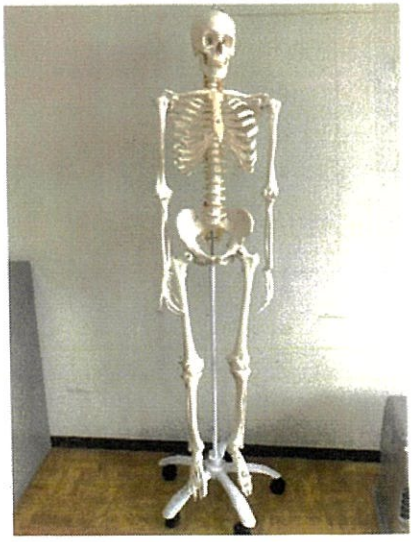
１．デスクトップリーダーの購入により、全盲の児童生徒が墨字の資料から音声で情報を得ることができるるようになり、学びを深めることができた。
２．理科の学習で観察を行う際に、顕微鏡で見た対象物を大型モニターに映し出したり個別のタブレットに送ることにより、微生物など細かい物の観察が可能になった。を学級で共有することができ、学びを深めることができた。
３．理療科では実技の授業をしながら骨格模型を触り、確認ができたため、骨格構造の理解が深まった。
４．持ち運びができる針電極低周波治療器の購入により、臨床室以外の実習室でも低周波治療を行うことができ、実習する機会が増えた。
５．スポーツ振興センター掛金補助により高等部、理療科生徒全員が加入できた。
６．資格取得へ半額補助を行った（漢字検定、数学検定、理療科模擬試験等）
７．ことばのない重複障がい児童生徒のコミュニケーションツールとしてのVOCAを購入し、朝の会や友達、友達とのやりとりで活用した。
８．白杖や石突を購入し、歩行指導を行った。児童生徒は自立活動の中で経験を積み、家庭で購入する際の見本としても活用した。

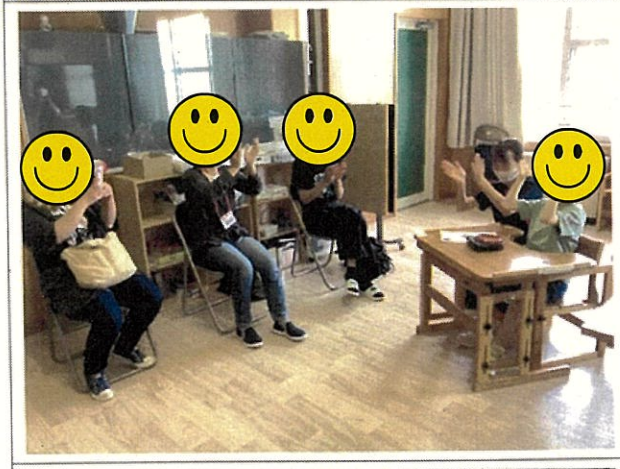
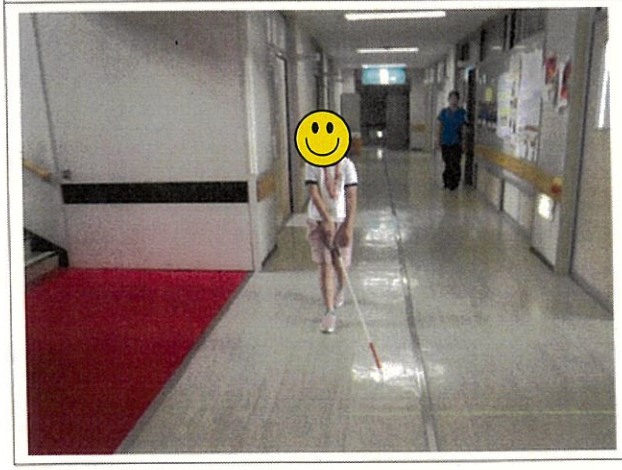
３ 添付書類

（１） 収支報告書（様式６）
（２） 領収書等、実際に経費を支払ったことが確認できる証拠書類（写し） ※対象経費のみ
（３） 事業の経過及び成果を示す書類（外部公開可能な写真を含むこと）
（４） 成果物各１部（開催案内・チラシ、当日配布資料等） ※成果物がある場合
（５） その他参考となる資料

R5 年度　信州 eye 基金写真記録

長野盲学校

	エンジェルビジョン （音声読み上げ機） 全盲の生徒が、教科書記載内容について音声で情報を得ることができた。
	投影可能生物顕微鏡 見えにくい児童生徒が、モニターをとおして観察をすることができた。 また、児童生徒同士が同じものを見ることで共通の課題で学ぶことができた。
	骨格モデル 理療科の生徒が解剖学の授業で、骨格を触り、確認しながら学びを深めることができた。

	ピコリナ 臨床室以外での実習でも、電気鍼を使った学びを深めることができた。
	VOCA 言葉を発することが難しい児童生徒が、VOCA を操作して、発表やコミュニケーションをとることができた。
	白杖 身長にあった白杖を利用し、歩行訓練を行った。

（様式５）

2024年　3月　1日

信州eye基金　事業報告書

公益財団法人長野県みらい基金
理事長　髙橋　潤　様

所在地　長野県松本市旭2-11-66
団体名　松本盲学校PTA
代表者職氏名　PTA会長　清水 妃佐子　印

2023年9月26日付けで助成決定通知を受けた標記助成金について、助成募集要項10の規定により、下記のとおり報告します。

記

1　助成を受けた助成コース

○	(A)「**学びたいを応援**」：県内の視覚障がいを有する児童・生徒の学習支援に資する事業
	(B)「**暮らしを応援**」：県内の視覚障がいを有する者への全般的な支援に資する事業

2　報告する事業について

（1）　事業名称

視覚障がい応援事業

（2）　事業の実施期間

2023年9月26日　～　2024年3月15日

（3）　助成額

（A）既助成額（概算払）	516,000	円
（B）対象経費の支出額	516,000	円
（C）助成金返還額　＝（A）－（B）	0	円

（様式５）

（４） 事業の内容

保護者の点字学習会や、福祉活動や普段の学習で使用する点字学習において使用し、点字の充実と普及を図る。

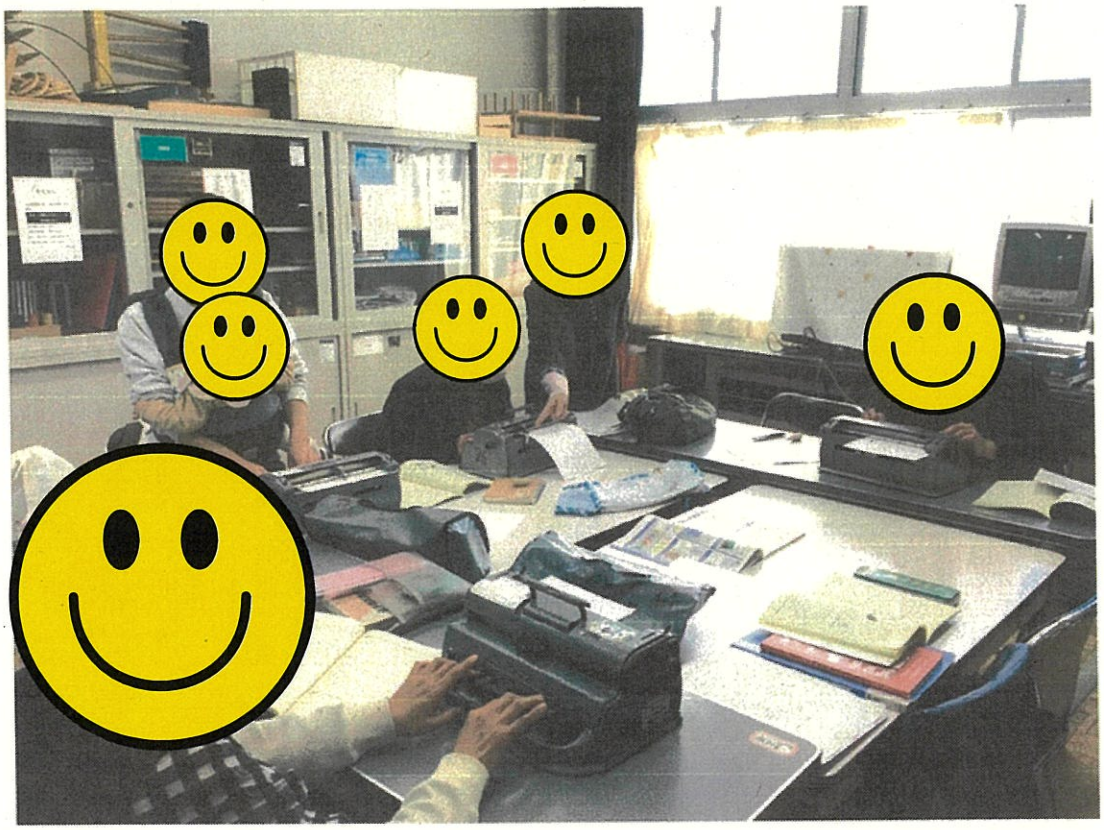
（５） 事業の成果

旧式で不具合の生じている点字タイプライターに代わり、スムーズに使用できる状況を整えることができた。今後、外部の学生ボランティア等からの借用依頼にも対応しやすくなった。

３ 添付書類

（１） 収支報告書（様式６）
（２） 領収書等、実際に経費を支払ったことが確認できる証拠書類（写し） ※対象経費のみ
（３） 事業の経過及び成果を示す書類（外部公開可能な写真を含むこと）
（４） 成果物各１部（開催案内・チラシ、当日配布資料等） ※成果物がある場合
（５） その他参考となる資料

保護者点字学習会の様子



（様式５）

2024年　9月　30日

信州eye基金　事業報告書

公益財団法人長野県みらい基金
理事長　髙橋　潤　様

所在地　長野県長野市徳間716
団体名　AT&D Lab.
代表者職氏名　代表　藤澤 義範　印

2023年9月26日付けで助成決定通知を受けた標記助成金について、助成募集要項10の規定により、下記のとおり報告します。

記

1　助成を受けた助成コース

○	（A）「**学びたいを応援**」：県内の視覚障がいを有する児童・生徒の学習支援に資する事業
	（B）「**暮らしを応援**」：県内の視覚障がいを有する者への全般的な支援に資する事業

2　報告する事業について

（1）　事業名称

点字独習システムの開発

（2）　事業の実施期間

2023年9月26日　～　2024年9月30日

（3）　助成額

（A）既助成額（概算払）	779,000　円
（B）対象経費の支出額	779,000　円
（C）助成金返還額　＝（A）－（B）	0　円

（様式５）

（４） 事業の内容

点字を学習した児童・生徒が自宅などの指導者がいない環境において，一人で点字学習を行う場合，学習者が触読した点字の正誤を学者自身で判断することは難しい．点字と墨字を併記したとしても，晴眼者が学習者の側にいなければ，この問題は解決できない．

そこで，この問題を解決し，より効率よく点字学習が行える機器「点字独習システム」を開発することが本事業の目的である．

申請者らはこれまでに，非接触式のカードに短文の情報を記憶させ，そのカードを乗せると発話する機器（https://youtu.be/zupcnwio8c0）を開発している．

この開発経験とノウハウを活用し，学習機器としての機能を付加することで「点字独習システム」の開発が可能であると考える．この機器を利用することで，指導者がいない環境においても学習者自身で点字の学習が行え，正しい点字を独習することが可能となる．

（５） 事業の成果

申請者らがこれまでに開発してきた「Card to Speech」を応用し，「点字独習システム」の開発を行った．システム開発にあたり使用するカード内に記憶できる文章量を大幅に増やすプログラムの改良を行い，これまでひらがな２０文字程度であったが，現状では，４００文字以上の文字が記憶できるようになった．

また，これまでのものはカードを機器にかざすだけの動作であったが，そこに，一文単位の早送りや巻戻し機能を加えた．さらに，点字を読み取る速度は，学習の進捗に依存することがあるため，音声の読み上げ速度を１０段階で変更できる機能を付加している．

長野県内の盲学校へ試作機を持参し貴重な意見をいただいた．例えば，音声の読み上げ速度変化は，「低・中・高」程度にし，機器の操作をもっとシンプルにしてほしい．などである．機器は，携帯可能なサイズであるが，もう少し工夫が必要である．

３ 添付書類

（１） 収支報告書（様式６）
（２） 領収書等、実際に経費を支払ったことが確認できる証拠書類（写し） ※対象経費のみ
（３） 事業の経過及び成果を示す書類（外部公開可能な写真を含むこと）
（４） 成果物各１部（開催案内・チラシ、当日配布資料等） ※成果物がある場合
（５） その他参考となる資料

点字独習システムの開発

令和６年９月３０日

AT&D Lab. 代表 藤澤 義範

１． 本事業の目的

点字の学習環境は学習者に依存し，さまざまであるが，一般的には，指導者が点字の指導を行い，学習者自身が触読しながら指導者が，それがどのような文字なのか，記号なのか，文章なのかを触りながら指導者がそれを教えるのが一般的な点字の学習方法である．

通常の学校であれば，例えば，学校で算数を学習すれば，学習内容を復習する宿題が課せられ，学習者は宿題を家に持ち帰り指導者がいない環境下で算数の宿題に取り組む．このとき，学習者がわからない問題は，親などに相談することで宿題を進められる．それは，周囲の大人がすでにその内容を習得しているので，対応が可能なのである．

しかし，盲学校などを考えた場合，学習者が盲学校で点字を学習し，仮に，点字の文章を読む宿題が課せられた場合，学習者の親の大半は点字を習得しておらず，学習者の手助けをすることはできない．だからと言って，学習者の周囲の大人全員が点字を新たに学習し，習得することは現実的に不可能であると言える．

そこで，本事業では，指導者がいない環境においても点字学習者が自ら点字の正誤が判断できるような仕組みを作れないかを考え，これまでに開発してきた機器を応用することでそれが可能であると判断し，開発することとした．

２． 点字独習システムの概略

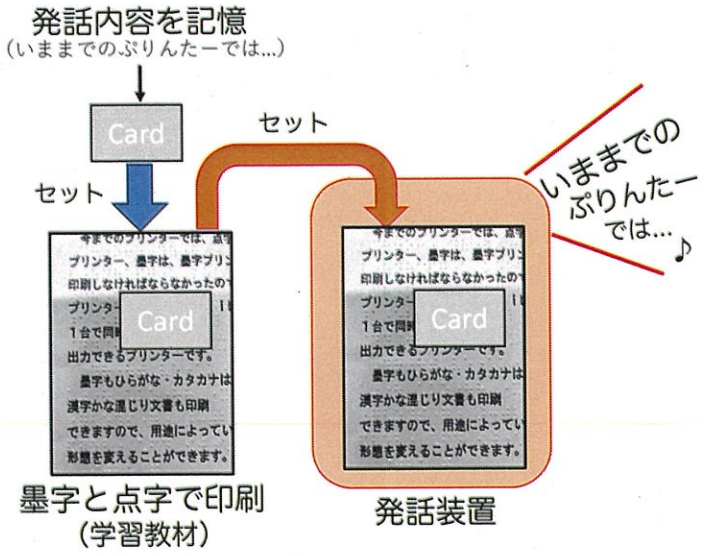


図１：点字独習システムの機能

点字が印刷された用紙の点字を光学的に読み込みそれを文字として認識し，発話させることは非常に高度な技術が必要となり，速やかに今の問題点を解決できないと考えた．

そこで，図１左のように点字が印刷された用紙の文字情報をすべて音声情報にしたものをあらかじめ作成しておき，それと用紙をペアにして一つの学習教材とすることとした．

この学習教材は，指導者があらかじめ作成する必要があるので，指導者の新たな負担を軽減させる別の「学習教材開発アプリ」などを開発する必要がある．

学習者は，指導者が作成した学習教材を自宅などへ持ち帰り，点字を触読しながら学習した点字の復習を行う．このとき，学習教材を発話装置に乗せることで文章の内容を発話する．触読の速度と発話の速度を合わせるための発話速度の変更やCDプレーヤーのような文章単位の早送りや巻戻しなどの機能も必要であると考えた．

本システムは，指導者が作成する学習教材と学習教材の内容を読み取って発話する発話装置から構成されている．

３．成果物

実際に開発した教材を図２に，発話装置を図３に示す．

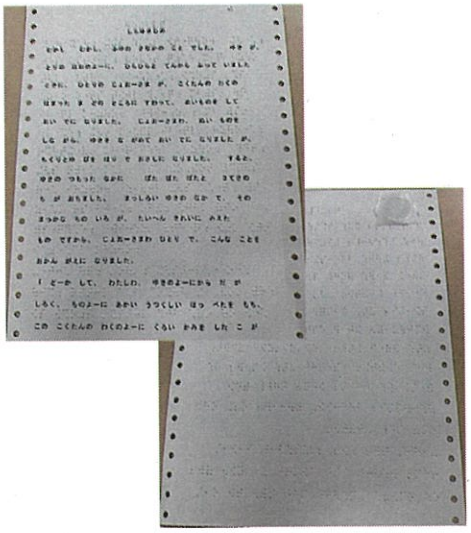


図２：使用教材

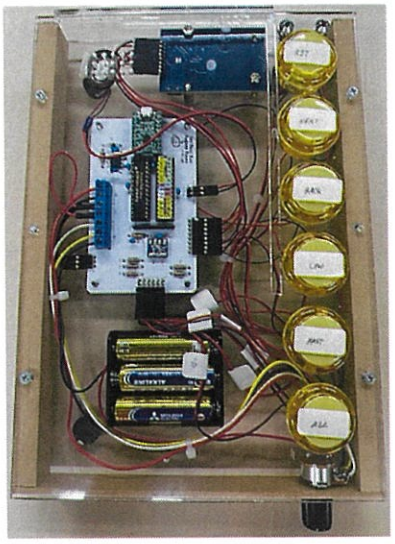


図３：発話装置

試作として開発した発話装置には，指導者に必要なカードへの書込み機能のほか，学習者に必要な次の４つの機能が搭載されており，図３の本体の右側のボタンを使い操作する．

(1)　文単位読み上げ機能

(2)　全文読み上げ機能

(3)　早送り，巻き戻し機能

(4)　発声速度変更機能

４．盲学校からのコメント

本システムを松本盲学校へ９月１１日に，長野盲学校へ９月１３日に持参し，実際に操作などしてもらい，意見や感想などをいただいた．

実際に使ってもらった先生方は，実際に自分が受け持っている生徒さんなどを想像しながら，「あの子なら使える」とか，「あの子には，もう少しこうしてほしい」などの意見をいただいた．

具体的には，ボタンの数が多いというのが問題だとわかった．早送りと巻戻しの２つのスイッチのみにして，発話速度は，カードに「ゆっくり，ふつう，はやい」の三段階の情報を入れる方が現場としては使いやすいという意見があった．また，我々はスイッチは右側に配置したが，例えば，点字の教科書を想定すると，スイッチは上の方が良いというコメントがあった．

また，発話装置の厚みがもっと薄いほうがよいという意見があり，この点は大幅に筐体の設計を見直す必要があることがわかった．

５．今後について

今回，試作開発が遅れしまい，思ったように改良することができなかった．その理由は，筐体にある．筐体をすべて手作業で開発しているため，現在のような状況になってしまった．発話装置の小型化などを考慮し，市販の筐体の採用も視野にいれてなるべく早い段階で現場に投入したいと考えている．

すでに，回路部とプログラムは完成しているので，現場で使いやすい筐体に収める作業を現在行っている．

（様式５）

2024年9月30日

信州eye基金　事業報告書

公益財団法人長野県みらい基金
理事長　髙橋　潤　様

所在地　長野県松本市美須々2-1
団体名　美須々ケ丘セミナー
代表者職氏名　理事長　小林 磨史　印

2023年9月26日付けで助成決定通知を受けた標記助成金について、助成募集要項10の規定により、下記のとおり報告します。

記

1　助成を受けた助成コース

○	（A）「学びたいを応援」：県内の視覚障がいを有する児童・生徒の学習支援に資する事業
	（B）「暮らしを応援」：県内の視覚障がいを有する者への全般的な支援に資する事業

2　報告する事業について

（1）　事業名称

美須々UDR応援プロジェクト

（2）　事業の実施期間

2023年9月26日　～　2024年3月31日

（3）　助成額

（A）既助成額（概算払）	461,000　円
（B）対象経費の支出額	461,000　円
（C）助成金返還額　＝（A）－（B）	0　円

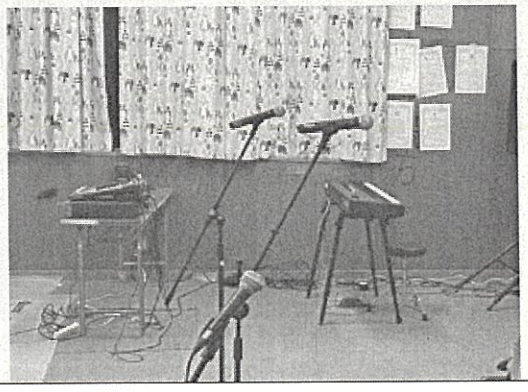
（様式５）

（４） 事業の内容

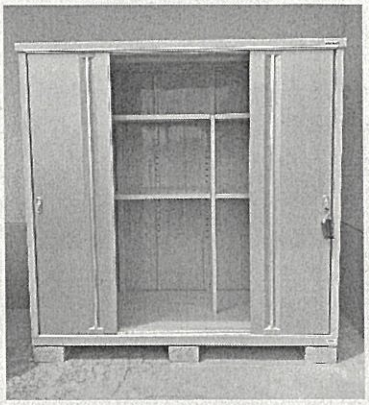
１　備品等の整備
・点字教材作成に係るソフトの整備
・全盲生徒が所属する軽音楽部練習室内の安全に係る機材等の整備
２　サポートに関わるボランティア生徒への謝礼

（５） 事業の成果

１　全盲生徒の学習及び安全係る備品等の整備
・My　Book　Neo
サピエ図書館にアップされた図書だけでなく、これまで読み上げされなかったＷｅｂ上のＰＤＦも音声読み上げられるようになった。進路学習や総合的な探究の時間に、より多くの情報にアクセスできるようになった。
・ワイヤレスマイク、キーボード専用スピーカー
配線を省略または安全を配慮した形で通すことができ、室内の安全性が向上したことに加え、なぜこうする必要があるのかを担当教諭から部員に説明したことにより、共生について生徒が考える機会となった。
・物置
練習室内に普段は使用しない物品（文化祭等のイベントで使用）が置かれており、練習室内の整理に大変苦慮していた。それらを物置へ移動させることによって、より整然とした室内となり安全性の確保につながった。また、整理整頓することは場を共同で利用する際に重要であり、共生社会においてはより重要であることを生徒は学んだ。



（様式５）



２　視覚障害の理解・啓発推進に係る事業の実施

・生徒ボランティアによる点訳作業

11名の生徒が昼休みまたは放課後に週１回活動。

年度当初に、点字の基礎を学習し、その後パソコン上で点字の入力・校正を行った。

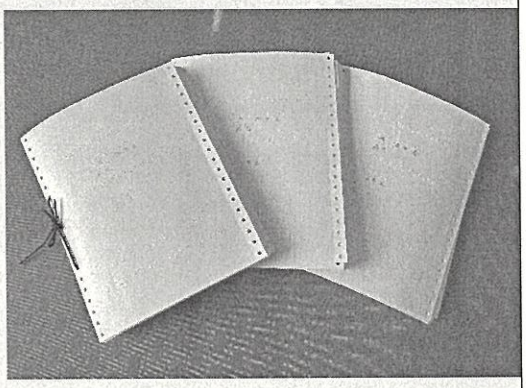
人権講演会の感想、小説、授業で使用するプリント等を点訳した。

★点字編集システム７

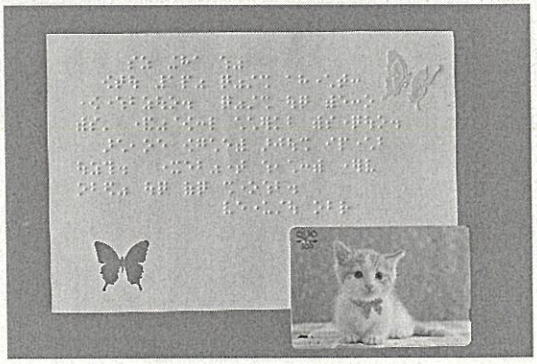
★QUO カード

※昨年度 eye 基金で購入させていただいたパソコン、小型点字器、点字用紙も使用。

【生徒ボランティアの活動】
２人１組で作業を行っている。
１人が原文読み上げ、もう１人が PC で編集、２人で漢字や文法の誤りがないか確認している。



【生徒ボランティアが点訳した冊子】
生徒ボランティアが点訳したものは紙で印刷し、手で持って量を実感できるようにしている。



【生徒ボランティアへの謝礼（左）】
QUO カードに全盲生がお礼のメッセージを添えてボランティアに手渡した。生徒ボランティアのなかには墨訳や５０音表を見ない状態でメッセージを読み切った生徒もいた。

（様式５）

点訳のボランティアをしてくれている生徒たちが、絵本「のんたん」を点訳し、松本盲学校小学部に点字絵本を贈呈した。贈呈式では、生徒たちが絵本の読み聞かせも行い、児童に楽しんでもらうことができた。

・地域点訳ボランティアへの研修

「点字カンナの会」（塩尻市）に向けて高校における支援や点字教材の作成方法等について、支援担当教諭が講師となって、研修を実施した（資料別紙）。当団体からは、「市の広報や選挙広報等の点訳実績はあるものの、教材の点訳をするのは初めて。これを機会に、今後も点字使用の児童生徒の点字教材作成に取り組んでいきたい」と前向きにお返事をいただき、2023年夏以降、本校の教材の点訳をしていただいている。

また、入試点訳事業部より講師を派遣してもらい、「てんとうむし」（長野市）に向けて試験点訳上の工夫について、研修を実施した。

★点字編集システム７

★EXTRA for Windows Version 7

・全校人権講演会での啓発活動

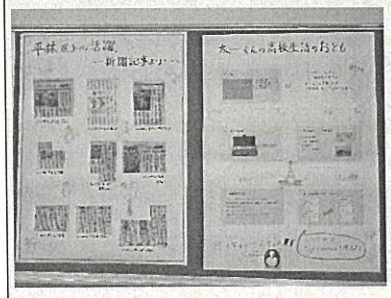
「“混ざり合う社会”を実現しよう」と題し、全盲生徒と支援担当教諭が講師となって、全校生徒約８００人に向け、講演した。

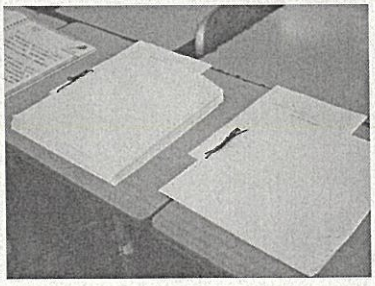
・私立高校での職員研修

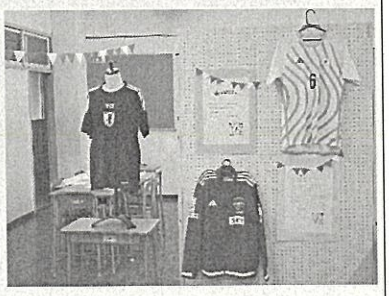
人権教育に関わる研修として、全盲生徒が講師となって、約50名の教員向けに講演した。

・文化祭での点字教材等の展示

パリ 2024 パラリンピック競技大会ブラインドフットボールに日本代表として選出されたこともあり、これまで日本代表として着用したユニホームやボールを展示するとともに、学校で使用している点字教材や全盲生徒が使用している学校の「おとも」を説明したものを展示し、本校生徒だけでなく訪れた一般の方々にも広く知っていただく機会をもった。







（様式５）

３　添付書類

（１）　収支報告書（様式６）
（２）　領収書等、実際に経費を支払ったことが確認できる証拠書類（写し）　※対象経費のみ
（３）　事業の経過及び成果を示す書類（外部公開可能な写真を含むこと）
（４）　成果物各１部（開催案内・チラシ、当日配布資料等）　※成果物がある場合
（５）　その他参考となる資料

で高瀬川を渡り、市役所近を通る。同会は計画中止を
める署名活動を展開してい
が、「中止に賛成でも、立
があって署名できない人も
る。気軽に集える場に」と
めてデモ行進を企画した。
参加者は県大町合同庁舎前
に集合し、JR信濃大町駅ま
を約30分かけて歩いた。代
の川合将文さん(75)＝大原町＝は「市街地区間の問題点を、市民が気軽に話し合えるようにしたい」と話した。

見頃を迎えているクマガイソウ

松本美須々ケ丘高生 絵本の点訳冊子作成

盲学校へ寄贈

松本美須々ケ丘高校（松本市）の生徒有志が絵本の点訳冊子を作り、10日、県松本盲学校（同）を訪れ約15冊を贈った。高校生が点訳した冊子の同校への寄贈は初めてという。盲学校では、小学部の児童がより多くの絵本に触れる機会になると喜んでいる。

贈呈式では、高校生8人が児童の代表7人に点訳冊子を手渡し、絵本の読み聞かせもした。子どもたちは興味深そうに熱心に目を傾けていた。

盲学校の児童に読み聞かせをする生徒たち

同高校では2年前、同盲学校出身で全盲の平林太一さん(17)＝3年＝が入学したのをきっかけに点訳のボランティア活動がスタート。現在、有志の2、3年生約20人が週1回、昼休みや放課後に作業している。パソコンの専用ソフトを使って文字を入力し、点字の文書を作成。絵本の点訳を作るのに30分ほどかかるという。

同高3年の山口莉央さん(17)は平林さんを支えたいとの思いから、1年生の時から参加。「点字のルールや表記を覚えることが特に大変だった」と話していた。

児童から「もっといろんな本が読みたい」との声もあり、今後も点訳冊子の寄贈を続ける予定だ。

クマガイソウ開花

塩尻・洗馬の「釜井庵」庭で

塩尻市洗馬の県史跡「釜井庵」の庭で、絶滅危惧種の山野草「クマガイソウ」が今年も花を付け、訪れる人を楽しませている。10日は60輪ほどが確認でき、多くの人がカメラやスマートフォンのレンズを向けていた。釜井庵を管理する市本洗馬歴史の里資料館によると、この土日曜までは楽しめそう。

クマガイソウはラン科の多年草。手のひらに載る大きさの丸みを帯びた花を付ける。近くの山野草愛好家が十数年前に植えた株が増えた。安曇野市から毎年夫婦で訪れるという男性(76)は「派手でないところが魅力的だ」と話していた。

動物の木彫りなどが並ぶ矯正展

受刑者が作った製品販売

安曇野で「矯正展」あすまで

松本少年刑務所（松本市）など全国の受刑者が作った製品を展示即売する「矯正展」が10日、安曇野市の大王わさび農場で始まった。約60の刑務所で作られた木工や革靴、家具など410品目、2200点余が並ぶ。初日から観光客らでにぎわった。

松本少年刑務所は動物の木彫りや、安曇野の風景写真を印刷した便箋、長野刑務所（須坂市）は革靴をそれぞれ出品。人気キャラクター「ハローキティ」をモチーフにしたかるまなども並ぶ。岐阜県高山市から訪れた会社員の八尾知[illegible]さん(38)は「（製品の）クオリティーが高くお得感がある」と見て回った。

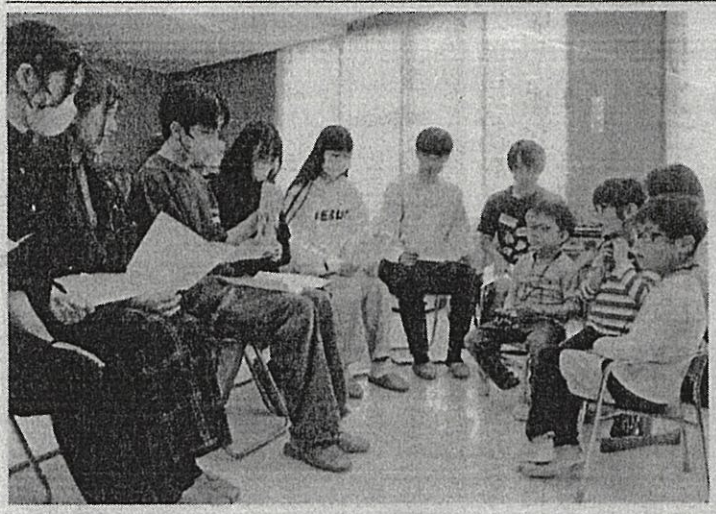
矯正展は、刑務所で身に付けた知識や技術を社会に還元して更生につなげる目的で、売り上げの一部は犯罪被害者への支援活動に充てられる。松本少年刑務所の高橋陽一副看守長(49)は「購入してもらうことで受刑者の励みになる。社会復帰を後押ししてほしい」と話している。12日までの午前10時～午後4時。

季節の花が咲き誇る「なばなの里 花
『志摩観光ホテル
伊勢神宮への厳選旅行

第3345号（昭和4

市民タイムス

発行所/市民タイムス：本社/〒390-8539松本市大字島立800番地
TEL(0263)受付47-7777 編集47-7774 広告48-2000 販売47-4755 Ⓒ市民タイムス2024年
FAX(0263)受付48-2422 編集47-1654 広告47-8585 販売48-2422 支社/安曇野・塩尻 支局/長野・木曽



小学部の児童たちに絵本の読み聞かせをする点訳ボランティアの生徒たち

絵本の点字訳 高校生制作

盲学校に寄贈 美須々高ボランティア

松本美須々ケ丘高校の点訳ボランティアの生徒たちは10日、松本市旭2の県松本盲学校（小林宏樹校長）に、点字で訳した絵本15冊を寄贈した。生徒7人が盲学校を訪れ、小学部の児童7人に本を届けた。

贈呈式では、絵本『おやおや、おやさい』の生徒による読み聞かせがあった。野菜を題材にしたリズミカルな言葉遊びがユーモアを交えて読み上げられると、児童たちは笑い声を上げながら聞き入っていた。

点字に訳された絵本は、元気な猫の男の子が主人公の『ノンタン』シリーズや、食材がいろいろな料理に変身する『いろいろたまご』など。児童たちの読みたい本を事前に調べ、制作した。

寄贈本を受け取った小学部2年生のクリヤマ・ダビ・アキヒロ君（8）は「本が好きなので、たくさん読みたい」と喜んだ。

『ノンタン』シリーズを点字に訳した美須々ケ丘高3年生の柏原槇（まき）さん（17）は「子供たちに喜んでもらえると励みになる。視覚障害がある子供たちが幼少期にたくさん本に親しんでもらえるよう、少しでも力になりたい」と話していた。

（田子元気）

倉庫から運び出した漆塗りで花の模様が描かれた葬儀の輿

江戸末期か明治から使用 土葬の習俗伝え

壇で、左右に長さ約3㍍の長柄を通し、前後二人ずつで担いだとみられる。屋根にボタンの花、胴部や基壇に鳳凰が舞う姿やキク、キキョウの花が描かれ、祭りの神輿のようでもある。輿のほかに、葬列で持った「南無阿弥陀仏」と記された旗や木製の龍頭なども残されている。

四賀文化財保護協会長で、原山に住む市川恵一さん（74）によると、輿は土葬が行われていた65年ほど前まで、使われていた。市川さんは「4歳ことから、博物館での収納を依頼。市立博物館は、館内の資料審査会で収納を決めた。

この日は、学芸員らが輿を倉庫から地区内の旧錦部小学校の外部収蔵庫に移動させた。学芸員の武井成実さん（30）は「野辺送りという習俗を知る資料として現物が残っているのはありがたい。展示できる機会をつくれたら」と話した。大切に守ってきた市川さんは「これでひと安心」と穏やかに語っていた。

（真田皆子）

脱炭素の視点 全ての事業で

市 推進本部の初会議

松本市が全庁的に脱炭素の取り組みを加速させるために設置した「ゼロカーボン推進本部」の初回会議が10日、市役所で開かれた。各部局長ら18人が参加して、ゼロカーボン実現計画の個別施策の取り組み状況についてそれぞれ報告し、本部長の臥雲義尚市長の指示を受けた＝写真。

会議は庁内会議の位

タンダードジャズを中心に、メンバー13人が20曲ほどを披露する。

サークルは、NHK文化センター松本教室の講座が母体。3月の松本教室閉場を受け、

市民タイムスの購読に関するお問い合わせは
通話料無料
0800-800-5559

（様式５）

2024年10月10日

信州eye基金　事業報告書

公益財団法人長野県みらい基金
理事長　髙橋　潤　様

所在地　飯田市座光寺2303-4
団体名　声の広報ボランティアグループ
代表者職・氏名　代表　永井美佐子　印

2023年9月26日付けで助成決定通知を受けた標記助成金について、助成募集要項10の規定により、下記のとおり報告します。

記

1　助成を受けた助成コース

	（A）**「学びたいを応援」**：県内の視覚障がいを有する児童・生徒の学習支援に資する事業
○	（B）**「暮らしを応援」**：県内の視覚障がいを有する者への全般的な支援に資する事業

2　報告する事業について

（1）　事業名称

視覚障がい者にお届けする声の広報

（2）　事業の実施期間

2023年9月26日　～　202　年9月30日

（3）　助成額

（A）既助成額（概算払）	539，000円　円
（B）対象経費の支出額	539，000円　円
（C）助成金返還額　＝（A）－（B）	0円　円

（様式５）

（４） 事業の内容

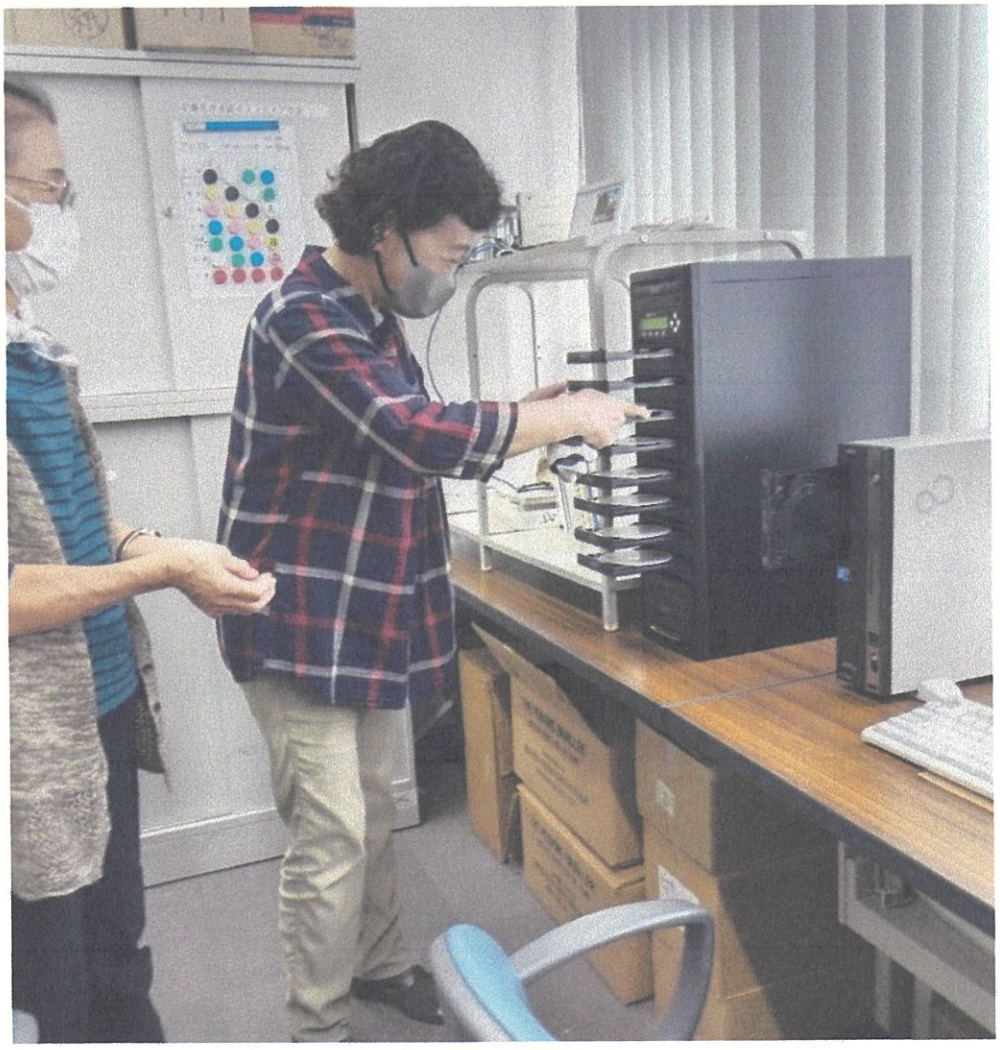
視覚障がい者が、飯田市の生活情報を知る唯一の手段である音訳CDの作成の一連の作業を効率的に行う。

（５） 事業の成果

新規導入機器により、トラブルがなくなり、少ない人材でも録音・ダビングにに携わることのできる人が増え、録音・編集・ダビングがスムーズできるようになった。 このことは、一日も早く視覚障がい者にCDをお届けでき、また会員のもっといいものをお届けしようという士気にもなった。

３ 添付書類

（１） 収支報告書（様式６）
（２） 領収書等、実際に経費を支払ったことが確認できる証拠書類（写し） ※対象経費のみ
（３） 事業の経過及び成果を示す書類（外部公開可能な写真を含むこと）
（４） 成果物各１部（開催案内・チラシ、当日配布資料等） ※成果物がある場合
（５） その他参考となる資料



（様式５）

2024年　5月27日

信州eye基金　事業報告書

公益財団法人長野県みらい基金
理事長　髙橋　潤　様

所在地　長野県上田市保野830-1
団体名　特定非営利活動法人わっこ自立福祉会
代表者職氏名　理事長　村山 顕　印

2023年9月26日付けで助成決定通知を受けた標記助成金について、助成募集要項10の規定により、下記のとおり報告します。

記

1　助成を受けた助成コース

	（A）「学びたいを応援」：県内の視覚障がいを有する児童・生徒の学習支援に資する事業
○	（B）「暮らしを応援」：県内の視覚障がいを有する者への全般的な支援に資する事業

2　報告する事業について

（1）　事業名称

同行援護従業者養成研修

（2）　事業の実施期間

2023年9月26日　～　2024年5月　27日

（3）　助成額

（A）既助成額（概算払）	850,000　円
（B）対象経費の支出額	981426　円
（C）助成金返還額　＝（A）－（B）	0　円

（様式５）

（４） 事業の内容

「同行援護従業者養成研修」
視覚に障害を持つ方に対して普段の生活のＱＯＬの向上を支援する資格を習得する事業。

（５） 事業の成果

高校生を含む１４名の受講者、南は上伊那郡、北は長野市からの申込があった。
今講座は、遠方より申込をされた受講生に、会場までの負担を減らすために、ZOOM を活用した配信を行い演習以外の講座を配信で行った（受講生４名、聴講者２名が配信を利用）
演習以外の講座について、都合により履修できなかった日程の講義を ZOOM 配信より YouTube に録画し履修を行う事で、受講生全員が資格取得することが出来た。
講座日程の都合により、大学生その他７名が受講を辞退されたが、次回以降の講座で受講を希望された。
資格を取得された受講生は、それぞれ各地事業者に登録をされ、第一線で同行援護支援事業に携わる。

３ 添付書類

（１） 収支報告書（様式６）
（２） 領収書等、実際に経費を支払ったことが確認できる証拠書類（写し） ※対象経費のみ
（３） 事業の経過及び成果を示す書類（外部公開可能な写真を含むこと）
（４） 成果物各１部（開催案内・チラシ、当日配布資料等） ※成果物がある場合
（５） その他参考となる資料

（様式５）
研修用配信動画　公開可能な部分を抜粋
第一日目（３月３日分）
https://youtu.be/X6dk1ybjo-y

第二日目（３月９日分）
https://youtu.be/csLRUz-5EDM

第三日目（３月１０日分）
https://youtu.be/iWzJKc8hAbo

第四日目（３月２３日分）
https://youtu.be/MELzsMoRGc

第四日目（３月２４日分）
https://youtu.be/KiliKTLR7yA

第五日目（３月３１日）
https://youtu.be/bPi2JTYNeD8

丸子修学館にて同行援護従業者養成研修周知活動

（様式５）

視覚障害者と共に市会議員２名と清明小学校生徒達と商店街のバリアフリー調査

上田市視覚障がい者福祉協会と同行援護ネットワークについてディスカッション

（様式５）

2023　年　1　月　31　日

信州 eye 基金　事業報告書

公益財団法人長野県みらい基金
理事長　髙橋　潤　様

所在地　長野県北佐久郡軽井沢町長倉 4826-3
団体名　まるっとみんなで準備室
代表者職氏名　代表　有光 茜　印

2023 年 9 月 26 日付けで助成決定通知を受けた標記助成金について、助成募集要項 10 の規定により、下記のとおり報告します。

記

1　助成を受けた助成コース

	（A）**「学びたいを応援」**：県内の視覚障がいを有する児童・生徒の学習支援に資する事業
○	（B）**「暮らしを応援」**：県内の視覚障がいを有する者への全般的な支援に資する事業

2　報告する事業について

(1)　事業名称

まるっとみんなで映画祭 2023 in KARUIZAWA

(2)　事業の実施期間

2023 年 9 月 26 日　～　2023 年 12 月 30 日

(3)　助成額

（A）既助成額（概算払）	707,000　円
（B）対象経費の支出額	707,000　円
（C）助成金返還額　＝（A）－（B）	0　円

（様式５）

（4）　事業の内容

◉音声ガイドつき上映会の実施

・2023 年 11 月 17 日(金)～20 日(月)の 4 日間にわたり開催された、軽井沢で初となるユニバーサル上映会「まるっとみんなで映画祭 2023 in KARUIZAWA」で音声ガイドつきの上映会を 3 作品実施し、視覚障害当事者も共に映画を鑑賞できる環境を整備した。

＜上映作品＞
11 月 17 日(金)「さかなのこ」＋監督によるトークイベント　監督：沖田修一　音声ガイド：UDcast を使用
11 月 18 日(土)「片袖の魚」　監督：東海林毅　音声ガイド：音声ガイド機器を貸出
11 月 18 日(土)「カランコエの花」　監督：中川駿　　音声ガイド：音声ガイド機器を貸出

＜まるっとみんなで映画祭 2023 in KARUIZAWA 概要＞
日時：2023 年 11 月 17 日(金)～20 日(月)
会場：軽井沢町中央公民館、上田映劇
特設ページ：https://theatreforall.net/karuizawa-screening-23/
総来場者数：300 名

◉送迎サポートの実施

・視覚障害や車椅子利用などにより会場までの移動が困難な人のために、軽井沢駅、中軽井沢駅、信濃追分駅、御代田駅からの無料送迎バスを SC 軽井沢クラブとの連携で運行した。

◉視覚障害当事者への広報

・チラシ、ポスターを用いて軽井沢を中心に御代田、小諸へ広く広報をすると同時に、視覚障害当事者に本事業の情報を届けるため、長野県盲学校へ個別で案内をした。また、文字メディア以外の広報として FM 軽井沢でのイベント紹介など、耳に届ける広報にも取り組んだ。
・WEB ページに使用される画像には代替テキストを挿入した。
・事業の取り組み、実施報告に至るまで全国に向けた情報発信を WEB ページにて行い、視覚障害をはじめとした様々な障害への理解促進・普及啓発に務めた。

◉青眼者への啓発

・映画祭のプレイベントとして、合理的配慮講座、ユニバーサルイベントの運営についての研修会を実施した。アイマスクを装着し白杖を持った参加者を来場者と想定し会場内を誘導したり、アイマスクを装着し見えない状態の参加者に向けて目の前に表示されるイラストがどのようなものなのか伝えるワークなどを行い、視覚障害当事者が映画祭に来場した際の運営スタッフの対応・心構えについて、ボランティアスタッフや行政関係者、一般申込者を対象にレクチャーした。
講師：関孝之氏（ながのアートミーティング）
進行：星野麻子

（様式５）

(5)　事業の成果

◉成果と課題

・プレイベントの研修会には健常者30名ほどが参加し、アイマスクでの体験を通じて視覚障害者は何に困っているのか、どんなサポートが必要か気づくきっかけとなった。参加者からは「平坦だと思っている道でも小さな段差があり歩くことが怖い」という感想もあり、ソフトの面でのバリアフリーとして青眼者の意識を変える啓発の機会となった。また、研修会参加をきっかけに映画祭へ来場した人もおり、地域への波及効果を生み出した。

・ユニバーサル映画祭として、音声ガイドをはじめとした字幕対応や手話通訳、日英通訳などの情報保障、送迎バスや休憩室・授乳室、リラックスエリアなどの環境設計に注力したが、残念ながら視覚障害当事者の来場は 0 名であった。軽井沢町が公表している統計では視覚障害当事者は町内に30名在住しており、彼らの来場がなかった点に広報課題が残る。

参考）ほか種別ごとの来場者…聴覚障害当事者：2 名／知的発達障害者：15 名／英語話者：10名

・広報の中で長野県盲学校の職員へヒアリングしたが、まず家族や支援者のサポートなしに家を出ることが困難であり、会場最寄駅からの送迎バスでは不十分であることや、配信プラットフォームで自宅でも映画鑑賞が気軽にできてしまい外で映画を見ることが選択肢として上がらないこと等が課題としてあがった。

◉今後の展開

・映画はそもそも視覚情報が多い芸術であり音声ガイドに対応していない作品も未だ多く、視覚障害当事者にとって親しみやすいものではない面もあるが、本映画祭では鑑賞の先にある他者との語らいや、アーティストとの触れ合いを障害の有無に関わらず参加者に届けたいと考えており、事業を継続していくことで当事者の芸術体験の選択肢の 1 つとなることを目指していく。

・今回の課題と知見を活かし、次回の映画祭では視覚障害当事者へ情報を届けるためのアプローチを検討したい。点字版チラシの作成や対面での広報など、今年取り組むことのできなかった点を事前にスケジュール、予算に組み込み実装したい。

3　添付書類

(1)　収支報告書（様式６）
(2)　領収書等、実際に経費を支払ったことが確認できる証拠書類（写し）　※対象経費のみ
(3)　事業の経過及び成果を示す書類（外部公開可能な写真を含むこと）
(4)　成果物各１部（開催案内・チラシ、当日配布資料等）　※成果物がある場合
(5)　その他参考となる資料

まるっとみんなで映画祭2023 in KARUIZAWA
事業の経過及び成果

◎客席設計
パイプ椅子のほか、ソファ席、寝転びエリアを設け、それぞれがリラックスして鑑賞できる客席設計に取り組んだ。

◎「さかなのこ」上映会＋監督トークイベント
音声ガイドつき上映会「さかなのこ」終了後は監督によるトークイベントを開催。来場者からの発言もあり双方向のコミュニケーションが生まれた。

◎感想シェア会
作品を鑑賞して自分は何を感じたか、他者はどう感じているのか、意見交換会を実施した。日英通訳も入り、普段接点のない人々たちが映画を通じて交流した。

◎送迎バス
視覚障害当事者や車椅子利用者、車を所持していないなど会場へのアクセスが困難な人々へ向けて、SC軽井沢クラブとの連携で、軽井沢駅、中軽沢駅、信濃追分駅、御代田駅から会場までの送迎バスを運行した。

◎研修会
アイマスクを装着し見えない状態の参加者に向けて目の前に表示されるイラストがどのようなものなのか伝えるワークを実施。

（様式５）

2024年　10月　9日

信州 eye 基金　事業報告書

公益財団法人長野県みらい基金
理事長　髙橋　潤　様

所在地　札幌市西区発寒８条11丁目2-17
団体名　一般社団法人いっぽん
代表者職・氏名　代表理事 佐久間 信語　㊞

2023年9月26日付けで助成決定通知を受けた標記助成金について、助成募集要項10の規定により、下記のとおり報告します。

記

1　助成を受けた助成コース

	（A）「学びたいを応援」：県内の視覚障がいを有する児童・生徒の学習支援に資する事業
	（B）「暮らしを応援」：県内の視覚障がいを有する者への全般的な支援に資する事業

2　報告する事業について

（1）　事業名称

拡大字・点字普及プロジェクト担い手育成事業

（2）　事業の実施期間

2023年9月26日　～　2024年9月30日

（3）　助成額

（A）既助成額（概算払）	398,000　円
（B）対象経費の支出額	400,937　円
（C）助成金返還額　＝（A）－（B）	▲2,937　円

（様式５）

（４） 事業の内容

①「点字メニュー製作のための担い手づくり」

2023年10月、事業開始に伴い、事業内容と今後のスケジュールについて、小湊さんと当団体スタッフ２名でオンライン打合せをしました。同年12月には小湊さんの店「おやきや千代子」に当団体スタッフ２名が伺い、点字メニューの製作方法を小湊さんにレクチャーしました。事前に調達しておいた必要備品を用いて、実際にご依頼いただいたカフェモリノ様のメニューをもとに製作しました。点訳部分は事前に札幌の点字打刻スタッフによって作成し、持参したものです。このレクチャーをもとに、次にご依頼のあったベジタボーラ様の点字メニュー製作は小湊さんが主体となって製作し、無事に納品まですることが出来ました。

②「点字付き名刺の製作ワークショップの開催」

小湊さんと当団体の共同開催でおやきや千代子にて2024年９月に１回開催し、大人４名に参加いただきました。なお、おやきや千代子ではこども食堂を定期的に実施しており、利用する子どもたちに点字を打つ体験をしてもらう機会も設けることが出来ました。

③「「拡大字・点字普及プロジェクト」の担い手拡大」

当初の計画では、2024年7～9月に担い手拡大に向けた取り組みをする予定でしたが、活用予定だった広報用パンフレットの製作が遅れていたため、今回の事業期間内ではほとんど実施が出来ませんでした。

※オンラインでの打合せは全４回実施。（2023年10月、2024年１月、４月、７月）

（５） 事業の成果

事業①に対する成果

視覚障がい者が多く来店されるという長野市役所１階で営業されている「カフェモリノ」様とサンドイッチのお店「ベジタボーラ」様のメニュー製作を小湊さんが主体となり、点字メニュー導入先の選定→構成→製本→納品と、一連の流れを実践していただき、自力で製作できるまでとなりました。

事業②に対する成果

参加者４名の方には、自分の名刺に点字で名前を打つだけでなく、当団体の視覚障がい者スタッフに直接渡し、読んでもらうという過程を取り入れました。参加者からは「（自分の打った点字が）合ってて良かった」「伝わって嬉しい」など、視覚障がい者の世界に触れ、伝わる喜びを体験していただくことが出来ました。また、小湊さんから「視覚障がい者が飲食店を利用した際にお店側で出来るサポートを知りたい」と要望があり、当団体の視覚障がい者スタッフが繋がりのある札幌市内の当事者５名に行ったヒアリング内容を入店・注文・配膳の３場面に振り分けて、皆さんに共有しました。参加者からは、「もっとお店や周りの人（主に晴眼者）を頼ったり、要望を伝えてもいいのではないか」「そもそも視覚障がい者の方を案内する時は具体的にどんな介助をすればいいのか」など様々な意見が聞かれ、後者の質問では実演を交えながら説明させていただき、実際に小湊さんと視覚障がい者スタッフでおやきや千代子の店内を歩いてみるというデモンストレーションも行うことが出来ました。その他にも「飲食店にお願いした内容を簡単なカードにして、入店時に店員に見せるという方法はどうか」「点字メニューの表紙に白杖をもった人が来たら見せる等の工夫も出来たら、より活用されるのでは」など、具体的なアイディアもお聞きすることが出来たので、小湊さんとも相談しつつ、今後の展開を検討したいと思います。

（様式５）

事業③に対する成果 広報用パンフレットには、点字見本を貼付する仕様となっており、その作業をおやきや千代子のこども食堂を利用している中学生や高校生にお手伝いいただき、長野市内で配布することが出来ました。小湊さんからは「点字メニューの製本であれば、黙々と作業する事が好きな中学生や高校生の子どもたちにお願いできるかもしれない」との話があるため、今後点字メニューの製作の担い手になってもらえる可能性があると考えます。 助成金終了後もオンラインで定期的に情報交換や悩み相談できる機会を設け、小湊さんと伴走しながら、拡大字・点字メニュー普及プロジェクトの担い手づくりを行って参りたいと考えております。

３　添付書類

（１）　収支報告書（様式６）
（２）　領収書等、実際に経費を支払ったことが確認できる証拠書類（写し）　※対象経費のみ
（３）　事業の経過及び成果を示す書類（外部公開可能な写真を含むこと）
（４）　成果物各１部（開催案内・チラシ、当日配布資料等）　※成果物がある場合
（５）　その他参考となる資料

信州 eye 基金 事業経過 ❶

事業開始

2023 年 10 月 13 日
オンライン打合せ
（小湊・佐久間信語）

10 月 28 日
点字メニュー導入店舗決定
（カフェモリノ・ベジタボーラ）

12 月 18 日　製作レクチャー
カフェモリノ様のメニューをもとに製作。構成・点訳はいっぽんで行い、その後の製本作業（印刷、ラミネート加工、点字シート・QR コード貼付・切り欠き）は当団体でレクチャーをしつつ、小湊さんが担当。

2024 年 1 月 15 日
オンライン打合せ（小湊・佐久間）
12 月のレクチャー以降、点字メニュー製作での不明点等改めて確認。

1 月 26 日
カフェモリノ様へメニュー納品

3 月 11 日
ベジタボーラ様メニュ完成
※納品は店舗改修工事のため
納品は８月。

子ども食堂と同時実施
点字ミニ体験
子ども食堂を利用する
子どもたちに点字の打刻
体験をしてもらいました。

4 月 15 日
オンライン打合せ
（小湊・佐久間）

7 月 22 日
オンライン
打合せ
（小湊・
佐久間）

広報用パンフレット完成

7 月～9 月頃
広報用パンフレットが完成。貼付する点字見本を子ども食堂を利用する子どもたちに点字の打刻と貼付をしていただきました。

2024年9月26日　導入店舗を視察

小湊さんがメニューを製作し8月に納品した、ベジタボーラ様へ視覚障がい者スタッフとともに利用。実際に点字メニューを使用し注文する事ができた。点字の凹凸状態なども合わせて確認し、良好な状態で保管されていた。翌日のワークショップで共有。

2024年9月26-27日

おやきや千代子・いっぽん主催
ワークショップ実施

2024年9月27日

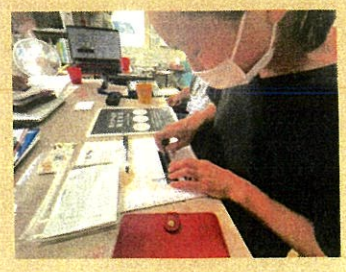
ワークショップ@おやきや千代子（三輪店）

小湊さんの呼びかけで3名の方々が参加。子育て中のママや市議会議員、長野NPOセンター職員と多彩な立場・職種の方々にお集まりいただきました。

ワークショップの様子

ワークショップでの学びをもとに店内で介助体験

名刺に自分の点字を書いてみよう



1行16マスの点字器で点字を書いていただきました

事業終了

さっぽろの視覚障がい者さんと一緒に考えるワークショップ

おやきや千代子ではバリアフリーの視点を取り入れた優しいお店を目指し、昨年5月に拡大字・点字メニューを導入しました。製作は、札幌市にある「一般社団法人いっぽん」です。本ワークショップでは、いっぽんの理事で全盲の柴田俊也さんをお招きし、店主がかねてより疑問に感じていた、視覚に障がいのある方々が実際に飲食店を利用した際に「お店側では、どんなサポートが出来るのか」をメインテーマに話し合います。なお「道端で視覚に障がいのある方と出会ったら？」等素朴な疑問にも触れていきます。

日時 2024年9月27日（Fri.）10：00～12：00

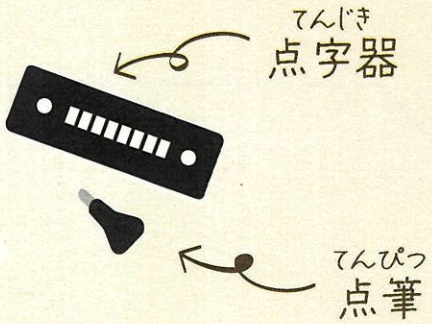
内容 【情報提供】視覚障がい者の見え方や暮らし
【WS❶】視覚障がい者が飲食店を利用する時は、お店はどんなサポートできる？
【WS❷】名刺に自分の名前を点字で書いてみよう！

場所 おやきや千代子（三輪店）

主催 おやきや千代子／一般社団法人いっぽん

本企画は公益財団法人長野県みらい基金
「信州eye基金」の助成を受け、
実施いたします。

お名前点字器



視覚障がいのある人にとって、

点字のない名刺は何も書かれてない紙と変わりません。

お名前点字器を使って、**伝える名刺**に変えてみませんか。

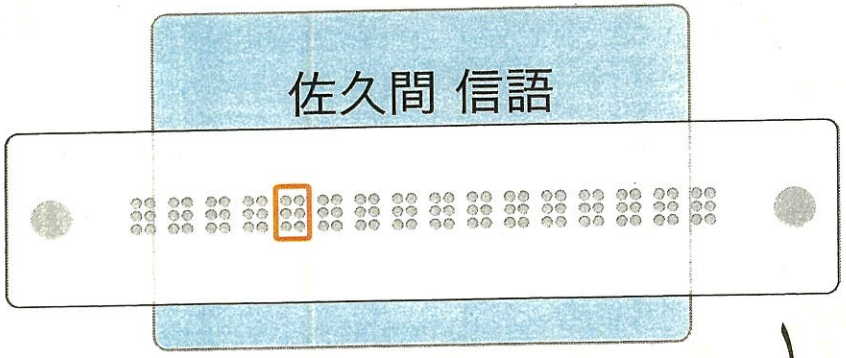
名刺サイズに
ちょうどいい

1行16マスで
シンプル設計

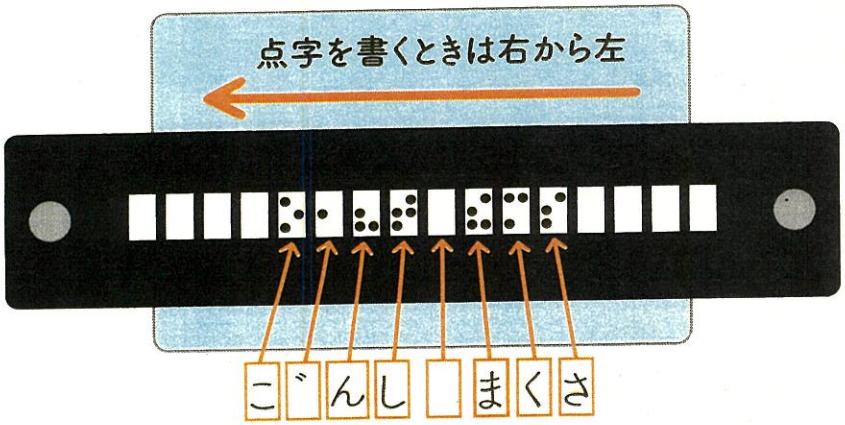
メッセージカードや
ポップにも

お名前点字器の使い方

名刺おもて



名刺うら



点字の書き方にはルールがあります

- 五十音は1マスで書き、濁音や拗音は2マスで書きます。
- 苗字と名前の間は1マス空けます。
- 仮名で発音したときに「お」や「う」となるのびる音は長音「ー」で書きます。

実際に点字を書いてみましょう

1. 点字一覧表（書く用）で自分の名前を探します。
2. 名刺を表にし、点字器の透明な面を上にして挟みます。
3. 点字を書く位置に合わせらた、ひっくり返します。
4. 点筆を使って、書いてみましょう。

一例を紹介します

山田　太郎 → やまだ　たろー
内山　陽子 → うちやま　よーこ
ありがとう → ありがとー
今日 → きょー
友人 → ゆーじん

●みやすい●わかりやすい●

音声・点字付き
「ユニバーサルメニュー」

障がいのある人にも優しいお店づくりを検討中の方へ

衛生的
防水加工で
消毒OK！

**白黒反転
拡大字**
弱視の方でも
見やすい！

**音声
ガイド付き**
点字が読めない
方でも安心！

一般社団法人 いっぽん

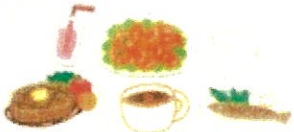
視覚に障がいのある人はいつも こんな思いで食事を注文しています…

毎回、友達やガイドヘルパーさんに全てのメニューを読み上げてもらうのが申し訳ないので、一度行ったお店では、前に食べたことのある物を注文しています

メニューを読み上げてもらっても、情報量が多すぎて、本当に食べたい物を選ぶのが難しいです

点字メニューがある事で、こんなにも 食事の楽しみ方が変わるのです！

自分のペースで「どれにしようかな？」と迷いながら、**じっくりメニューを選ぶ**ことができました



メニューの値段がわかるので、**お財布と相談しながら**選べます

「次に来た時は何を食べよう？」と想像できて、**食事を選ぶ楽しみ**が増えました

【ユニバーサルメニュー】の特徴

1 消毒可能で衛生的

・ラミネート加工＆防水シールに点字打刻

2 黒背景に拡大白文字印刷

・弱視の方が使用するルーペや老眼の方でも読みやすい拡大字。

3 音声ガイド付き（QR コード）

・中途失明などで点字が読めなくても、スマホの操作ができれば
QR コードから音声ガイドを聞いて食べたいものを選べます。

＜音声ガイド見本＞
瞳を閉じ、音声ガイドを聞いて、
メニュー選びを体感してみてください

＜点字の見本＞
瞳を閉じて触ってみてください

（訳：あいうえお　かきくけこ）

〈ユニバーサルメニュー導入〉は こんな方にオススメ！

★障がいのある人も気軽に立ち寄れる
お店作りに力を入れたい
（合理的配慮の提供※）

★障がいのある人の
社会参加を応援したい

※令和６年４月１日から事業者による
障がいのある人への合理的配慮の
提供が義務化されています。

● プロジェクトの思い ●

2014年に「点字メニュー普及プロジェクト」を立ち上げました。
メニューに点字を付ける作業は視覚に障がいのある人に依頼しています。
「視覚に障がいのある人に、点字を活かした仕事をつくっていきたい」
「視覚に障がいのある人に、食事を選ぶ楽しみを、笑顔を増やしたい」
障がいがなくても年齢とともに視力は落ちてしまう…他人事ではないかもしれません。
そんな時、このメニューが少しでもあなたの支えになれば幸いです。
ユニバーサルメニューが置いてあることが当たり前になる世の中を目指して。

お気軽にご相談下さい

製作・お問い合わせ

一般社団法人 いっぽん

電　話：080-4632-2304　担当 佐久間

メール：info@ippon-hokkaido.com

一般社団法人 いっぽん